

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「令和4年の年末を迎えて」 【基本法検証はじまる】

農政の憲法とされる食料・農業・農村基本法の検証が本格的に始まりました。農林水産省では食料・農業・農村政策審議会を設置し、各団体有識者の皆さまより様々な意見を聴取して検証を進めています。基本法の検証では、「食料の国産化・国内資源の有効活用」「輸入の安定」「適正な価格形成」「輸出促進」「平時の食料安全保障」「国民の健康な食生活の確保」を農林水産省は主な論点として示しました。なかでも、全国のJAや農家の皆さまから頂く声として関心の高い課題が『適正な価格形成』であります。私は、今回の基本法見直しの最重点事項であり、国が責任を持って仕組みづくりを進めるべきだと考えております。

現状、農家戸数、農地面積の減少に歯止めがかからず、地域農業の弱体化が浮き彫りとなっております。高騰が続く生産資材のコストを販売価格に転嫁できず、農業経営は大変厳しい状況であります。国として肥料・燃料・飼料価格高騰への支援策を打ち出しましたが、まだまだ上昇分の生産コストを農畜産物価格へ反映することが出来ていません。食料安全保障に欠かせない持続可能な農業生産には、適正な価格形成の実現が不可欠であります。



▲食料・農業・農村政策審議会で挨拶

先日、福岡県で開催されました日本フードソフトフェス九州へ出席しました。このイベントは将来にわたり、自分たちの、そして、日本の食を確かなものとするために消費者と生産者、事業者が出会い交わることで、「食」への新たな気づきや発見、意識と行動を変えていくためのきっかけづくりを目的に開催されました。ウクライナ情勢を受け食料や生産資材等の価格が高騰するなか、適正な農畜産物価格の形成に向けた国民理解の醸成を図っていく行動は持続可能な日本の農業の未来を左右してきます。課題は山積みですが、日本の食料安全保障の確立に向けしっかりと取り組んでまいります。

今年も残すところわずかとなりました。引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策は必要になりますが、体調管理に十分に注意され、よいお年をお迎えてください。

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

ふるさと富山の若手農業者の 取り組みと新嘗祭の「よ」

【ふるさと米作地帯が変わろうと ついでに】

ふるさと富山のある若手農業者を訪問しました。お父さんも地域の農業をリードされてきた方で、今年の富山県を代表しての新嘗祭の祭司として、心温まる厳かな祭礼を催していただきました。

そして今、最初にお会いしたところに比べてさらに規模を拡大され、自作地は5ヘクタールですが、作業の請負が拡大し、水田作の面積は120ヘクタールにまで拡大され、うちコマメ作は70ヘクタール、飼料米18ヘクタール、キャベツ1ヘクタール、子実用トウモロコシ26ヘクタール、ハウスイチゴ、ハト麦など多彩な営農に取り組みまれています。

【トウモロコシの栽培で鶏卵会社に 飼料を提供】

また、近隣に数十万羽を飼育する鶏卵会社があり、今年から栽培した子実用トウモロコシの供給で連携がとれているとのことでした。

26ヘクタールにおよぶ子実用トウモロコシの栽培は、地域のコマメ作りの調整の一環としても必要で皆さん大変努力されています。



▲野村哲郎農林水産大臣と

さらにコマメ以外の作物の取り組みと合わせて、堆肥の活用がされてきました。改めて有数のコマメところである砺波平野（となみへい）で、循環型農業を意識した営農が取り組まれていることに気づかされました。

【美しい景観のもとでハウスイチゴ販売 の小さなレストランを開かれます】

その農業者は数年前からハウスイチゴを栽培してきましたが、加えて、乾燥イチゴや生食用イチゴを提供するレストランを開く準備がされていきました。広々とした富山平野を越えて、立山連峰が眺望できるすばらしい景観のもとで、自慢のイチゴを提供するということになります。

地域のリーダーとして、気候や農地の制約など多くの課題を抱えながら、地域、家族、行政、そしてJAが一体となった取り組みに感動しました。その思いがさらに農政に反映するよう頑張ります。